

武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議（第 17 回） 議事要録

日 時 平成 30 年 10 月 29 日（月）19：00～21：00

場 所 武蔵野市役所 812 会議室

出席者 委員 14 名、事務局 6 名

小澤（紀）委員長、鈴木（雅）副委員長、大沢委員、大谷委員、小澤（里）委員、
上吉川委員、木村文委員、強矢委員、塩澤委員、志賀委員、鈴木（圭）委員、
田中委員、村井委員、木村浩委員

- 議 事 等
- 1 エコプラザ（仮称）の整備に向けた市の基本的な考え方（案）について
 - 2 パブリックコメントの実施状況について

1 エコプラザ（仮称）の整備に向けた市の基本的な考え方（案）について

発言者	要旨
事務局	<p>－資料 2 「エコプラザ（仮称）検討市民会議検討のまとめ：本編」について説明－ まず、「武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議検討のまとめ」の修正箇所について説明する。</p> <p>P. 4 に基本理念の図を追加している。また、エコプラザ（仮称）が基本理念にのっとり事業を実施することで SDG s の達成にも貢献することを記載している。</p> <p>P. 9 には市民会議で提案いただいたプログラム例を追加している。</p> <p>P. 10 には（1）の管理運営業務の全体像を追記している。</p> <p>P. 11（4）①の 2 つ目で、様々な事業を実施した結果を SDG s の貢献度で評価するという考え方を追加している。</p> <p>－資料 1 「エコプラザ（仮称）の整備に向けた市の基本的な考え方（案）：本編」について説明－</p> <p>次に、「市の基本的な考え方（案）」について、「検討のまとめ」からの修正点を中心に説明する。</p> <p>P. 4 の「I 求められる環境啓発の取り組み」には、環境を身近な取り組みとして実践することが重要であることや、クリーンセンターの歩んできた経緯を踏まえ、この場所から環境啓発をして、ごみ処理への理解を求めていくことの意義について記載している。</p> <p>P. 5、P. 6 は新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会の検討事項とそれを踏まえた市民会議の検討内容を記載しており、「検討のまとめ」とほぼ同じ内容である。</p> <p>P. 7 には市民意見の聴取として、イベント等におけるアンケート調査及び環境市民団体へのアンケート調査の結果を抜粋して入れている。</p> <p>P. 8 「Ⅲ基本理念」は順番と内容を修正している。日々の生活の中に環境問題があるということを知ってもらい、気づきを環境に配慮した行動に結びつけ、一人ひとりの行動から「行動する地域」へと進める。地域力を高めてより良い社会になるという、</p>

ストーリーを持たせる書き方に変更した。

P. 9 「コンセプト」については、説明文を短くして端的に記載している。基礎となる考え方として、①に「地球温暖化を背景とした多様な環境に関する啓発」を書き加えている。②では、市民参加に市民提案を追加している。

P. 10③は「市民団体・事業者・市など異なる主体の連携」に、④は「進化・成長」を「進化しながら磨く」に変更、⑤はごみゼロの考え方は政策として打ち出しにくいことから「クリーンセンターの歴史の継承と連携」として歴史を引き継ぎつつ、クリーンセンターと連携して、ごみの発生を可能な限り抑制して持続可能なまちを目指していくことと変更している。

「IV機能」の「1施設の位置付け」として、エコプラザ（仮称）を市内全域へと環境に配慮した行動を促す拠点施設としている。また誰でも利用できる施設としている。

「2施設の機能」では、内容と文言を整理した。機能の「情報伝達」を「知る」に変えているが、検討いただいた内容から大きく変更しているところはない。

P. 11 からの「V連携、協力」は、環境に関する総合的なネットワークを構築することと、施設だけでなく出前・出張型事業を展開すること、全国各地の施設と連携して環境に取り組むことについて加えている。

市の環境啓発事業については、事業の整理・再編を考えながらエコプラザ（仮称）へ引き継ぐ事業を検討していくこととし、市民団体や民間事業者などが実施した方がより効果的に啓発できる事業については、市民団体や民間事業者などがその担い手・主体として活躍できるように活動を支援していくと記載した。

P. 13 の「4環境を切り口とした他分野事業との連携」では、「環境を切り口に他の事業、教育や福祉との連携の可能性がある」とし、子どもや子育て等、多くの分野の事業との連携の可能性を考えながら関係課と協議していきたい。

「VI管理運営」では、運営の考え方はほぼ「検討のまとめ」と同じだが、「環境啓発を担当する部門がエコプラザの中で執務することを視野に入れ」と加えている。

P. 13 の運営者の資質については、(4)～(6)を追加している。

「2運営にかかるコスト」については、今後改めて示す形にしている。「4運営上の留意点」では、都市計画法上、営利を目的とした事業は制限されるため、財政的支援が必要な点を書いている。クリーンセンター敷地内の施設とフィールドを一体的に活用することを検討していく。

「VII空間の利用」の P. 17 「2リノベーション方針」(1)で旧事務所棟3階を減築すること、(2)では旧プラットフォームの大空間を活かした事業を展開することが重要であることを記載。

次のページでは、プラットフォームとして使用していた雰囲気を残し大きな改修は行わない、大空間が特徴なので間仕切り壁などで仕切らないという方針を記載している。改修費用はこれまでに報告したとおりの内容を記載している。エコプラザ（仮称）のエネルギースペックとして市建築物環境配慮指針に基づき環境に配慮した施設に、

	<p>また環境省のモデル事業の一環としての電力供給、その他エネルギー装置の設置について記載している。また、災害時の防災機能についても追加している。</p> <p>P. 22 の今後のスケジュールについては、これまでに示しているとおり。</p>
委員長	<p>ご意見のある方は発言願いたい。今回いただいた意見に基づいて、11 月中に市の基本的な考え方を決めることになる。</p>
委員	<p>「市の基本的な考え方（案）」P. 10③異なる主体との連携について、「コレクティブインパクト」という言葉があるが、異なる主体が成果を最大化する上で必要なのが、共通認識で、目標やビジョンを共有することである。基本的な部分で共有していないと、何をどうやるというところでズレが出てくるのが心配である。それをここに書くだけでうまくいくということでもないと思うが、目標、成果、基本的価値などを共有した上での連携ということを示しても良いと思う。</p>
委員長	<p>P. 9 の「コンセプト」で書かれているとおり、「共」「創」「継」「場」でみんなで作っていき、運営その他に関わっていくということ。人生 100 年の住まいの問題が大きくなっている。都心では超高層ビルが立ち並び、住まいと敷地のあるエリアと市がどのように主体となり当事者性を持っていくかが重要だという話を聞いた。目標の共有だけではなく、実践もして交流できる場があつて、そこで新しくつくる価値をお互いに磨いていくということが大切。</p> <p>景観もただ単に景観が良いだけではダメで、磨いていく必要があるという話を聞いた。</p> <p>地域で共有して景観を磨いていかなければならず、そのところをこのコンセプトに書いている。委員の皆さんも伝道師としてその役割を担うことになると思っている。</p>
委員	<p>このレベルのところはズレていると、一緒にはできないのではないかと思う。</p> <p>低炭素社会、脱炭素社会をつくらうという時に、国と同じ目標で良いのか、先進国と同じ 50 パーセントを目指すのかという中で、温暖化対策は 99 パーセント国の責任だと投げるのか、地方自治体でできる範囲がこんなにあると考えるのか、その辺りが共有できていないと連携は始まらない。具体的なビジョン、具体的な数値を示してほしい。</p>
委員長	<p>あまり細かく書いても難しい部分もあるので、「機能」に「学び合う」と入れることにした。</p>
委員	<p>市民レベルで言うと、その差を知るというところから始めていかないと、いきなり数値目標を言われてもわからないと思う。まずは知ってもらうことから始めることが大切だと思う。</p>
委員	<p>基礎情報を集めて共有した上で、目標を定めた方が良いのではないか。</p>
委員長	<p>目標を掲げるよりも、「CO²を出しているのは、なぜか」と問う方が伝わると思う。</p> <p>3. 11 の時に、設備を効率的にしようという考え方も出てきたが、やはり、ずっと住んでいると古くなり、隙間があつたりするとエネルギーも漏れる。そういう所から学び合い、知ることが大事である。</p>

	<p>断熱材を入れれば良いというだけではなく、断熱材を入れることはどのような効果があるのか、そういったことを子どものアイデアで知らされたこともある。子どもたちの方が案外わかっていたりする。そういったことができる場をみんなで共有することが必要だと、「機能」のところに要約して書いてあるので、もう一度議論を思い出してほしい。</p>
委員	<p>次は具体的にどのように運営していくかという話がでてくると思うが、どことどうやって連携していくかということ具体的に考えなくてはならない。連携していくべき相手なのかを見定めていくのかということも含めて、武蔵野はどこに目標を持つのかということから議論しなければいけないと思う。</p> <p>エコプラザ（仮称）をつくれれば何かできあがるのではなく、そこから始まるのだと思う。進化の初めての段階を踏むような、本当に地道なところからやっていかなければならない。</p>
委員	<p>「検討のまとめ」を皆さんに検討していただいたが、かなり完成度が高く、共通認識ができたと思っている。その後、市の考え方案としてまとめたが、行政として策定するので、少し改めているところがある。パブリックコメント等の意見を踏まえて、11月にまとめ、完成させたいと思っている。</p> <p>今後、プラットフォームと事務所棟の1階、2階をどうやって使い、運営していくのかという議論にシフトしていく。</p>
委員	<p>意見ではないのだが、文章にわからないところがある。P. 8のエコプラザ（仮称）が目指すものの3つ目、「一人ひとりの行動から、行動する地域づくりへ進める」、その次が「行動する地域をまち全体に広める」とあるが、「一人ひとりの行動が行動する地域づくりへ」というのがどういう状況なのか。ニュアンスはわかるが、市民に伝えるなら別の表現があるのではないかと思う。</p>
事務局	<p>一人ひとりが行動することから地域のモデルになって、この地域の向上に留めさせず、さらに市域全体に広めると言う意味合いである。表記がわかりにくいという意見はパブリックコメントでもいただいているので、書き方を検討する。</p>
委員長	<p>「行動する地域」と「行動する地域づくり」は、武蔵野市が住民参加で40年以上も、それぞれの地域コミュニティセンターと市で特色ある進め方として積み上げてきた武蔵野市方式であると思うので、” ”をつける等をしてはどうか</p>
委員	<p>P. 6の目指すものとしてSDGsをあげて、すごく良いと思う。</p> <p>実は中学校に、SDGsを調べようと話を持ったら生徒が喜んでいたので、もっと興味を持ってもらおうと図書館や本屋で本を調べたが、なかなか見つからない。</p> <p>中学校の文化祭でその言葉を掲げて、来ていただいた方とお話ししたが、大方の方はこの言葉を知らないということを知った。パブリックコメントに「難しくわからない」とあったが、SDGsの考え方はすごく良いと思うので、もっとわかるような説明が必要と思う。数行説明が入っているが、「貧困」「開発」「ジェンダー」というと、我が事とならないようだ。図書館でも、SDGs関係の本を探してもらったら、</p>

	<p>「開発」という言葉がたくさん出てきて、共有しにくい言葉なのかなと思う。</p> <p>P. 9でも多様性と包摂性という言葉で書いてくださっているが、一般の方には理解しにくいという気がした。</p>
副委員長	<p>書くことには限りがあるが、一般の人を相手にしているので誤解が生じやすいということは認識しておく必要がある。P. 9で置き換えてあるのは良いと思う。</p>
委員長	<p>「Development」をどう翻訳するかだが、教育学用語の「発展」と考えるとわかりやすい。2002年にイギリスに行った時は、「Sustainability」で、持続するための教育だった。「Development」というとトラクターで開発するようなイメージが特に強いかもしれない。ただ日本全体でこれが使われている。</p>
副委員長	<p>外務省のホームページでは、SDGsについて勉強させるために11月には全国の中学3年生に冊子を配るとあった。</p>
委員	<p>SDGsという言葉は初めて聞いたのは、ある発表会だった。私の実業界にいた10年ほど前はCSRが話題になっていた時期で、その時にはSDGsという言葉はまだなかった。</p> <p>今私が向き合っている荏原環境プラントもCSRを推進していて、私も一緒に活動しているが、果たして市民の中でCSRという言葉も浸透しているか怪しいと思っている。SDGsという言葉はさらに難しく、一般市民にはわからない言葉なので、うまく訳してほしい。</p> <p>外務省の動きについては、そういうものが教科書に載るなら、活用できると良い。</p> <p>CSRとSDGsを一緒に推進している企業については、多くの企業がそうなのか、最近のことなのか、動きはどのようになっているのだろうか。</p>
委員	<p>2000年はCSR元年と言われて各企業が企業の責任として取り組むようになってきた。SDGsは2015年に国連で採択されてから、CSR部署の人間として聞いたことはあったが、今年の春くらいから各企業で盛り上がってきていると感じている。去年、タレントのピコ太郎が広報して急に認知度が高まってきている。</p> <p>先ほど、学校での教育の話があったが、既に小学生、中学生、高校生の頃からSDGs認識の授業を受けていたり、日能研がSDGsの冊子を出したりしている。「SDGs」とストレートな書き方はされていないが、基本的な概念が書かれている。現在の若年層は未来の消費者でありお客様で、当たり前そういう感覚を持っているということであれば、企業としては今の段階からSDGsの流れに乗らないといけないと考えている。</p> <p>企業においては経営者のSDGsの認知度は非常に高いが、中間層、我々のような50代の認識は全然なくて、学生の方が意識は高い。新入社員採用時の面接官もやっているが、社会貢献とかSDGs、その前のMDGsの話が出ることもある。企業として、モノを売るというだけでなく、また、単に社会貢献ということだけではなく、気候変動もある中でどういうモノサシを持ってやるかということ。世界共通のSDGsを打ち出すこととして、全従業員でSDGsのeラーニングに取り組んでいる。将来を見据えて、2030年のゴールの時にはそういうお客様が多く来られるということ</p>

	踏まえて、今から事業を進めていこうと社長からの指示で、CSRとSDGsの名前を一緒にする指示を受けた。この後、また組織は変わっていくと思う。
委員長	1992年経団連が企業の環境指針を出して、そのくらいから動きが始まっている。国際的な動きと連動して企業の対応も変わってきていて、今後は、どういう風に学び合っていくかだと思う。例えば、SDGsに「海の豊かさを守ろう」と14番にあるが、そうするとプラスチックの問題を、小学生に今のストローがなぜダメなのか、では代わりになるものがあるのか、そういうところまで考えさせると面白い授業ができる。旅行用のトランク1つあれば、海の問題を学習できるプログラムがあるが、武蔵野市民と一緒にそのプログラムをつくり、教材をつくる。そういうことを一つ一つやっていくと、みなさんの腑に落ちる展開になると思う。

2 パブリックコメントの実施状況について

発言者	要旨
事務局	パブリックコメントの実施状況について、資料3速報版にて報告。
委員長	「環境問題に Leading City 武蔵野の気概がみられる活動内容を取り込むべく再検討をお願いしたい」という意見は、もう一度やり直せということだろうか。その下の「建物があるといずれ本旨がぼやけて運営がNPO任せになりかねない」というのは厳しいご意見と感じた。
委員	これは真摯に受け止める必要がある。反対意見が4名ということであったが、その理由として「ハコモノが必要ない」というのはわかるが、他に理由もあるか。
事務局	ほとんどがハコモノへの懸念であるが、イニシャルコストを出しているため、コストがかかり過ぎるというものや、他の環境問題、例えば下水道なども喫緊の課題なのに、なぜ啓発施設なのかというご意見などがあつた。
委員	パブリックコメントというのは議員も出して良いのか？
事務局	議員は出していない。
委員長	「定期的に参加デザインを振り返り修正していただきたい」は素晴らしい意見と思う。
委員	思ったより反対意見が少ないという印象。結構みんなに真面目に考えてもらっていると感じた。
委員	12町から意見をもらっている。
副委員長	他の施設へのパブリックコメントと比較すると件数はどうか。
事務局	多いと思う。
副委員長	多い割には辛辣な意見があまり多くないという気がする。それから、中身は我々が議論していることと被っていて、それを反芻しているようなものが多く、意外な感じは受けなかった。むしろ、我々の意見がそのまま伝わりつつあるのかと思う。あとは、やるだけ。内容次第。
委員長	この2、3年、異常気象が続いていて、皆さん、皮膚感覚で、'地球がおかしい'と感じているかもしれない。

委員	<p>温暖化に関する啓発企画で、学習会などを開催しているが、今年の夏以降、参加人数がぐんと増えている。学習会の前に手挙げしてもらった印象では、いつもなら8割がた関心の高い人しか来ないが、最近気になってきた人と半々くらいだった。やはり7月、西日本豪雨や、東京で38度を超えるような天候をみて、参加した人も多かったようだ。しかし、9月で涼しくなったら、ぱたっと来なくなった。</p> <p>NHKなどでは、災害のシーンとか、堤防を強くしなくてはとか、早く警報を出さなくてはどういう防災の話はするが、そもそもの「温暖化を止めないときりがない」という話にはなかなかいかない。毎年やっている「NHKスペシャル」の異常気象問題も、地震の話だけで今年はやらなかった。一般の方向けのメディアを通じた情報はそんなに増えていないと思う。ただ、実際の災害として目にしていることが温暖化と関わっていることがわかってきているので、いただいた意見の背景には、そういう関心の高まりはあって、賛同しているところがあると思う。</p>
委員	<p>「市民の意見をもっと丁寧に吸い上げる仕組みを早急に考えてほしい」という意見をされた方が、この他にも意見があったのか、教えてほしい。</p>
委員	<p>今回は速報版なので、最終的には全文は出さないが、要約したものを発表する。また、市のコメントを入れて公表する。今日は速報ということでご理解いただきたい。</p>
事務局	<p>この意見は、コストを心配して反対している方のもの。「ハコモノが本当に必要なのか。」、他にも「旧クリーンセンターの跡地には、子育て支援などの有効活用があるのではないか。」と記述がある。丁寧に市民の意見を吸い上げるしくみということに関しては、「市の考え方(案)」本編の中で出したものが、イベントで行った直近のアンケートだけだったので、たった99人の有効回答で市民意見を聴取したとはいえないのではないかと意見になったと思われる。実際には、もっとサンプルがあり、資料編には載せている。</p>
委員	<p>まとめ方のところで思ったことは、反対意見のコメントの見せ方として、一人の人の意見を分けて記載すると反対意見が多いように見られる可能性がある。見せ方で作為的に操作するわけではないが、公平に表すことができればと思う。</p>

報告事項 行政視察報告

発言者	要旨
事務局	資料にて仙台の2施設の視察報告。
委員	「たまきさんサロン」は、東北大学内に設置ということだが、賃貸借などの関係はどうなっているか。
事務局	連携協定による事業だが、賃料は非常に安くしてもらっていると聞いている。
委員	嘱託職員3名は、運営の事務的なことをやっているのか。
事務局	その3人で、大方の施設の運営はできているようだった。事業やプログラムの企画などは、市の環境啓発担当職員4名と一緒にいていた。職員4名は他の業務も担当

	しており、うち2名が主に「たまきさんサロン」を担当している。
委員長	「たまきさんサロン」は、周りに人家がない山の上で、交通の便が悪い。6000人近い人が来ているのはすごいと思う。
事務局	学生が来ているのかと思ったが、学生ではなく子どもをターゲットにしている。小学校だけで100くらいあり、先生方にもっとアプローチすることで、さらに増やすことができるとのことだった。
委員	地下鉄での来館者と、車での来館者は、どちらが多いか。
事務局	統計はとっていないと思うが、学校から団体で来る場合はバスで来ると聞いた。
委員	「せんだいメディアテーク」は、先ほど説明があったように、市民ギャラリー、図書館、映像メディアセンターの複合施設。建築家の伊東豊雄さんの設計で、これをモデルに武蔵境の「武蔵野プレイス」をつくろうということで、計画当時に担当だったので視察に行った。プレイスは、図書館、生涯学習、市民活動、青少年という4つの機能を融合してつくろうというコンセプト。メディアテークの特徴として、アーティストディレクターや企画活動支援室のコーディネート力が高く、アーカイブの制作などはクオリティが高い。今年の3月に「せんだいメディアテーク」の企画である「訳あり雑紙部」をクリーンセンターで展示会を行った。その時にディレクターの方に来ていただき、いろいろな活動について、どのように企画をしたか伺った。この雑紙の企画は、仙台市の清掃局とコラボで雑紙を減らそうということで始まったとのことだった。「仙台メディアテーク」には、顔が見えるコーディネーターがいるということ、企画力がある人がいるということが学ぶ点であると思う。企画も優れているし、特に映像関係のアーカイブはクオリティが高いと思う。
副委員長	メディアテークにはアートディレクターがいるということだが、エコプラザにしても、一人でいっぱい仕事をするようになってしまうと思う。学芸員を意識したら良いと思う。インタープリターとかキュレーターとか、いろんな言い方があるが、美術館や博物館に、学芸員という固いイメージがあるが、最近は、やわらかい発想で、アクティブな人が増えてきていて、いろいろな教育を受けているし、自分でも手が動くので、同じチラシをつくるにしても、そういう人がやれば、すごくアトラクティブなものがつくれると思う。そういう意味でいうと、雑用から交渉、あるいは展示企画などできる能力がある人として、学芸員資格というのはひとつの参考になる。美術館、博物館だけではなく、筑波大学の病院ではアート展示をしており、その効果を病院もわかってきて、病院にキュレーターとして学芸員を置くようになった。病院の中に、専門職として美術担当がいて、展示や案内、企画、入院している人を対象としたワークショップなどを行っている。病院を美術館にしてしまうという発想で始めた事業だが、専門職が入ることで、すごく面白いことができる。ごみ処理施設でも環境普及啓発施設でも、そういう美術系の人がいるとまた違うと思う。
委員	メディアテークの市民図書館は市が直営しているのか。また、事業の中で、補助事業と受託事業と指定管理事業があるが、その違いは何か。
事務局	図書館は直営で、指定管理は協定の中に記載されている基本的な事業。受託事業は、

	<p>おそらく、この公益財団法人仙台市市民文化事業団が、この指定管理とは別に市から委託を受けている事業。「補助事業」も市から補助金をもらって展開している事業であると思われる。指定管理の中に入っていない部分があるのではないかと思うが、理由は聞いていないのでわからない。お金の出どころは全て市と思われる。</p>
--	--

その他

発言者	要旨
事務局	<p>1) ワークショップ（9月29日開催）について</p> <p>9月29日に無作為抽出の市民によるワークショップを午後1時半から5時まで実施した。参加者は31名。10代5人、20代1人、30代3人、40代3人、50代4人、60代7人、70代8人と、かなり多世代の交流につながったと思っている。</p> <p>前半には、新クリーンセンターの工場棟、プラットホーム、また、外から覗くだけだったが、旧事務所棟の中の見学。後半のワークショップでは、3つのセッションに分けて話し合いを行った。</p> <p>「あなたはエコプラザをどのように使いたいですか」では、見学とエコプラザについてのイントロダクションを経て、エコプラザでどんなことをしたいかということ、個人ワーク、グループワークを経て、まとめてもらった。</p> <p>子育て世代の方からは、子どもの頃から環境について学ぶこと、環境について親しみを持って大人になってもらいたいという意見があった。反対に、環境のことを押し出しても人が来ないのではないか、周知面に少し不安があるというご意見もあった。</p> <p>環境を切り口にして他分野と連携するという視点で、気軽に遊べるところになってほしい、コミュニティカフェ、足湯カフェという意見もいただいた。子育てイベントをここでやったらどうか、高さ8mの壁を生かしてボルダリングはどうか、災害時に活用したいといった意見が、個人ワーク、グループワークの中から出た。</p> <p>「機能をどのように使いたいですか」では、市の基本的な考え方（案）で掲げている、「知る」「学ぶ、学び合う」「つなぐ」「育む、育てる」「支える」と「その他」という枠を設けて、それぞれ興味のある人同士で集まって、話し合っていた。「環境に良いこと」というと我慢というイメージがあるので、それを払拭したい、「夢のある環境生活を描きたい」と、イメージ転換を図ることを掲げているグループもあれば、「大きなイベントをきっかけに子どもたちに環境について関心を持ってほしい」、「環境について学んでほしい」という意見もあった。また、多世代間の交流、物々交換の観点から、ゆずりたい人とほしい人をつなぐという意見も出た。少数ではあるが、そもそもこの地区にエコプラザはいるのかというご意見もあった。</p> <p>「未来へつなぐ」というテーマでは、子育て世代の方、年代の上の方から、子どもに環境についてポジティブなイメージで学んでほしいという意見があった。</p>
委員	<p>このワークショップでは、グラフィックレコーディングという手法を取り入れ、議論しながら、絵を描いたり、意見を書いたりを、即興で仕上げていくという人がいた。</p>
事務局	<p>意見のグルーピングを背景の色で表していて、例えばマイナスのイメージは紫に色</p>

	<p>分けをするなど、わかりやすく面白い手法だった。今後こうした手法を使っていく機会が増えていくのかもしれないと感じた。</p> <p>37名の参加者の中には、そもそも施設整備に反対と思われる方もいたが、基本的には、市のまとめ（案）に肯定的な意見のもとに、どう関われるか、こういう機能があったら良いという意見だった。</p>
事務局	<p>2) 今後のスケジュール等について。</p> <p>今後のスケジュールとしては、市の基本的な考え方の案の修正案を11月19日に市議会の厚生委員会で行政報告をして決定していきたい。それを踏まえてハードの設計に入っていく。12月、2月の会議では、管理運営方針について議論いただきたい。</p> <p>12月の日程については、12月中旬までに開催したく、近日中に日程調整の連絡をさせていただく。</p> <p>議事要録については、8月1日分の議事要録を配布しているので、ご意見等あればご連絡いただきたい。8月23日分は、現在つくっているもので、改めてご連絡する。</p> <p>11月11日に青空市と同時開催で、環境フェスタが開催され、ブース出展を行う予定。お時間あればお立ち寄りいただきたい。12月9日にもエコマルシェでブースを出展予定。</p>
副委員長	<p>全体スケジュールを見ていると、どうしても起きがちなのが、基本的な考え方をつくったことで、なんとなくひと段落した気がしてしまうこと。建築の設計は専門職がやって、その次は工事になって、我々の考え方が途中でブランクになってしまいがち。設計をしながら運営を考えたり、運営を考える様子が設計にも伝わったり、工事をしている途中で、空間がだんだん見えてくると、こういう使い方があるという考え方ができたりする。箱物と運営側の意思疎通ができるようなつくり方、進め方に工夫が必要だと思う。</p>
事務局	<p>31年度については、まだ予算が確定していないが、事務局としては、31年度で運営に関する協議会を市民参加で立ち上げて、プログラムや設備面、備品の配置も合わせて検討していけたらと思っている。その時期がいつになるか、予算がどの位つくかというところはあるが、イメージとしては、そこが置き去りにならないように、ハードとソフトを絡めながら、話ができる場を考えている。</p>
委員	<p>箱がなくてもできることはたくさんあると思っている。これまでもやってきているので。それをエコプラザスタイルで試行錯誤しながらやるということが大切。プレ事業みたいな形で、エコプラザの考え方を先取りした事業は、箱なしでやれる部分は、予算はあまりとらなくても良い。温暖化だけではなく、緑だったりまちづくりだったり、いろいろあると思うので、それをきちんと位置付けて、継続して行って、運営管理に反映させる方が良い。さて、運営管理をどうしましょうと机上の議論をしているよりも、より生産的だと思う。</p>
事務局	<p>冒頭にも話したが、市の事業の整理再編も必要だし、どういった事業をエコプラザにつないでいくのかというのも、考えていかななくてはいけない課題。それと並行して、プレ事業も事務局としては考えているが、これも予算の面があるので、現時点では申</p>

	<p>上げられない。今後、予算の審議と相談しながらご提案できればと思っている。方向性に関しては、市の内部でもオーソライズする必要があるし、予算審議は、当然議会もあるので、審議を経ないと進められない。こういった事業ができるかは、お話しできる機会までお待ちいただきたい。</p>
委員	<p>予算がハードルになるというように聞こえるが、もちろん、事業計画としては入れなければいけないが、金額ということであれば、今までの予算のままでもやり方の工夫はあるのではないかな。</p>
事務局	<p>エコプラザ自体が新規事業なので、今年度もだが、すべての予算が審議の対象となる。今年度予算がついているから、この金額が来年もつくという事業ではない。定型事業となれば一定の金額は得られるが、現時点では、毎年、審議の対象になっている。</p>
委員	<p>同じ思いでいるが、いろいろ内部との調整もある。来年度を見越して、予算がついたところで、どうできるか、というのは考えたい。ただ、当然、間があいてしまうのは良くないので、その間に何ができるかは考えていきたい。また、設計はほとんどオープンな形で、今の形状を残して、あまりデザインしないようにしていきたいと思っている。ハードとソフトは一体のものなので、そうできるよう、仕立てていきたい。</p>
委員	<p>ニュースレターの発行は間があいてしまっているが、来年度はどのような予定か。</p>
事務局	<p>ニュースレターという形ではなく、市報に継続的に掲載できないかどうか調整を行っている。市報の中でコラムとしてシリーズ化できないか、あるいは、特集面を使えないかということを考えている。</p>
委員	<p>先日、エコマルシェで、旧クリーンセンターの見学ツアーを行ったが、エコプラザが何をやる場を目指しているのか、どういうことができるのか、議論している内容を端的に伝えることが非常に難しかった。丁寧に説明していく必要を感じているので、伝えたいことを小出しにしていく機会をどんどんつくっていかないといけないと思う。</p>
委員	<p>初めて参加したが、事前に資料を読んではいたが、エコプラザについて人に伝えようとする時には難しいところがあると思った。市民にどのように伝えるかが重要だと感じた。私もわからないところを教えてもらいながら、ネットで調べながら読んだが、そういった人の目線に合わせてやっていくことが愛着あるエコプラザにつながると思う。</p>
委員	<p>エコプラザの名前は、仮称とずっとついているが、これから、いつまでにどのように決めるのかという見通しや計画はあるのか。</p>
事務局	<p>今年度に決定するという事はない。来年度以降、どのようにするかを内部で話しつつも、このあと運営に関わる協議会を立ち上げる予定なので、そういったところの意見も聞きながら、内部調整、外部調整をして決定していくようになる。今年度は、「エコプラザ（仮称）」のままになる。</p>
委員	<p>視察先の「たまきさんサロン」は、面白くて、印象に残る名前でこういう考え方もあると思った。</p>